

いざ往かん!

太田東高校キャリア教育部

2020.6.30(火)発行 No.5

北陸・新潟の大学を知ろう!

～シリーズ：大学について知ろう(その3)～

今回の北陸・新潟方面は、**金沢大・新潟大**という国立総合大学の両雄を頂点に、工学部のみ**長岡技術科学大**や**富山県立大**、生物資源環境学部のみ**石川県立大**、美術工芸学部のみ**金沢美術工芸大**、海洋生物資源学部がある**福井県立大**、ロシア語教育(国際地域学部)や管理栄養士受験資格取得(人間生活学部)が可能な**新潟県立大**など個性豊かな大学が多い地域です。金沢大・新潟大の両雄に挟まれちょっと影が薄い感じの**富山大**も、実は2005年に3つの大学・短大が統合され8学部を擁する総合大学です。なお、新潟県には国公立大が多く、国立大3校(新潟大、長岡技術科学大、**上越教育大**)と公立3校(新潟県立大、**新潟県立看護大**、**長岡造形大**)に加え、来年度には工学部のみ**三条市立大**が開学予定。一方、私立大で最も有名なのが「面倒臭いいい大学」で常に第1位となる**金沢工業大**。また、**新潟医療福祉大**はバスケットボールやサッカーなどの強豪校として有名。北陸新幹線や上越新幹線で群馬からあつという間に行けるこの地域の大学で4年間過ごすのも悪くない…。

以下の文章は5年前(2015年)に私が新潟大学へ行ったときのことを書いたものです。オープンキャンパスも今年はWebがほとんどなので、これを読んで越後路の雰囲気を感じてくださいな。

NIIGATA UNIVERSITY

新潟大学に行ってきました…

新潟大学を地元の人々は略して「しんだい」と呼びます。決して「にいだい」とは言いません。実は神戸大学や信州大学もそれぞれの地元では「しんだい」と呼んでいます。ちなみに神奈川大学は「じんだい」です。では東北大学は?…もちろん仙台です。と言うわけで、川端康成『雪国』の文庫本とともに私は高崎から上越新幹線「Maxとき」(2階自由席)に乗り新潟へ向かったのです…。

新潟市は政令指定都市で実は雪はほとんど積もることがなく豊かな食文化を持っている魅力的な街だ!!

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」…この川端『雪国』の旅情あふれる書き出しが新潟の雪深いイメージを作ってしまったようです。確かに群馬や長野に近い方は雪深いのですが、海沿いの新潟市内は年に2～3回20cm程度の雪が積もるくらいだということです。そして新潟市は人口は80万人以上、本州日本海側唯一の政令指定都市です。高崎から新幹線で約1時間で到着します(『雪国』を読み終えることが出来ないじゃん!)。新潟市の中心は駅前ではなく、信濃川にかかる万代橋(♪想い出の夜は霧が深かった今日も霧がふる万代橋よ～)を渡った先の古町あたり(♪幸せの夜を二人過ごしたねいつか寄り添った古町通り～)。私の頭の中は川端『雪国』から美川憲一『新潟ブルース』に変わってしまっています。ところで、新潟の街を歩いていると女の人たちのスタイルが良くてびっくりします(女子高生の平均身長は全国一だそうです)。もともと太平洋側とは民族が違うという説もありますが、食生活にもその秘訣があるような気がします。新潟は生鮮野菜の購入量・金額が日本一で、これでもかと言うほど枝豆を食べ、のっぺ汁という野菜盛りだくさんのお椀があります。もちろん「酒どころ」ですから日本酒の消費量も日本一という、なんとすばらしい所です(♪愛した訳じゃないんだと強がり言えばああ…新潟は新潟は霧に更けゆく～)。

新潟大学の学生食堂で食堂熟女お勧めのメニューに挑戦する!!

新潟大学は本州日本海側最大の国立総合大学で、9学部・7大学院があり約13,000人の学生が在籍しています。人文・教育・法・経・理・工・農の各学部がある五十嵐キャンパスと、医学部・歯学部のある旭町キャンパスに分かれています。初日の説明会は五十嵐キャンパスで行われました。(注)※2017年に創生学部を新設、2020年に経済学部を改組し経済科学部と改称しました

新潟駅からJR越後線に乗り、新潟大学前という駅で降りて徒歩10分強、東五十嵐キャンパス正門付近京ドーム13個分という広大なキャンパスに到着します。そこから海岸まで数百メートルしか離れていないため、学生たちは「浜コン」(「浜辺でバーベキューをしながら行うコンパ」の略)をよくやるのだそうです。昼前に到着した私はとりあえず学生食堂を目指します。夏休み中で暇そうな食堂の熟女たちに「人気メニュー」を聞くと、彼女たちは本当に暇だったのか丁寧に教えてくれます。悩んだ結果、丼物コーナーの熟女お勧めの「ネギ塩唐揚げ丼(中)」(378円)に、健康に留意する中年男性として「ほうれん草ゴマあえ」(54円)と「豆腐とわかめの味噌汁」(32円)をつけ、合計464円の昼食となりました。

新潟大学はプライドを持ち全国から受験者を求めているのに倍率は低く狙い目の大学だ!!

説明会最初の学長挨拶(なんと高橋姿学長は群馬県出身!)では「国立大学として全国から優秀な学生を集め、卒業後は世界で活躍する人材となって欲しい」と述べていました。でも前期入試倍率は全学部平均で2.5倍(過去10年間3倍以上なし!)で、これは群馬大学よりも低い数字。新潟大学は戦前の旧6医科大(現在の新潟大・千葉大・金沢大・岡山大・長崎大・熊本大)の一つ。そのイメージを現在でも保っているため難易度(偏差値)に比べて二次の配点が高い学部が多く、センター失敗時の逆転を狙うにはうってつけ。なので、学生の6割以上は全国から集まっています(群馬県出身者も毎年100名以上が入学しています)。

新潟大学最大の利点は、7つの学部が同じキャンパスにあり文系も理系も4年間一緒に過ごすところ(医学部・歯学部も1年次は五十嵐キャンパス)。その利点を活かした取り組みが「副専攻」という自分の専門分野以外に別の分野やテーマについて体系的に学べる制度や、「ダブルホーム」と言う学部・学科の枠を超えて自由に参加できる地域との連携プロジェクト。これらは自由参加ですが、他にはない画期的制度です!

二日目は医学部保健学科の説明会に参加し、その後新潟市民のソウルフード「タレかつ丼」を食す!

市内中心部のホテルに宿泊し、翌日は旭町キャンパスの医学部保健学科の説明会に参加しました。新潟大学の保健学科は「看護」「放射線技術科学」「検査技術科学」の3専攻で、県外者の比率は高く、大学病院隣接で教育環境も良いのに入試倍率は高くない。看護専攻は看護師・保健師・助産師の資格が取れる上、卒業後に1年間教育学部で所定の課程で学べば養護教諭の資格も取得可能なのだそうです(コレってお得!)。



とんかつ太郎のかつ丼

徒歩で繁華街に戻った私が目指したのはタレかつ丼発祥の店「とんかつ太郎」。ドカベンやあぶさんの銅像がある古町通近くにその店を発見し入店、迷うことなく「かつ丼」(1050円)を注文します。タレかつは薄くスライスした赤身のカツを醤油ダレにくぐらせご飯に乗せたもので、言わばソースかつ丼の醤油版。待つこと数分、出てきた丼にはかつが5枚も折り重なるように乗っています。食べるとこれがしつこくなくシンプルだが奥深い味わい…これはいけます。

『雪国』を読みつつ帰宅の途へ、お土産はもちろんアッチ系…

帰りの新幹線の中で『雪国』の再読完了。その余韻に浸りながら自宅に向かいます。今回の土産は2つ…大学生協で購入した「新潟大学饅頭」(850円)と新潟駅で購入した「笹団子」(750円)。食いしん坊和菓子好き息子と色気より食い気に走るカミさんが大喜びでパクつく姿を見つつ、私の想いは新潟へ戻ってしまします…ああ、今回も駒子や菓子に会えることはできなかった…。